

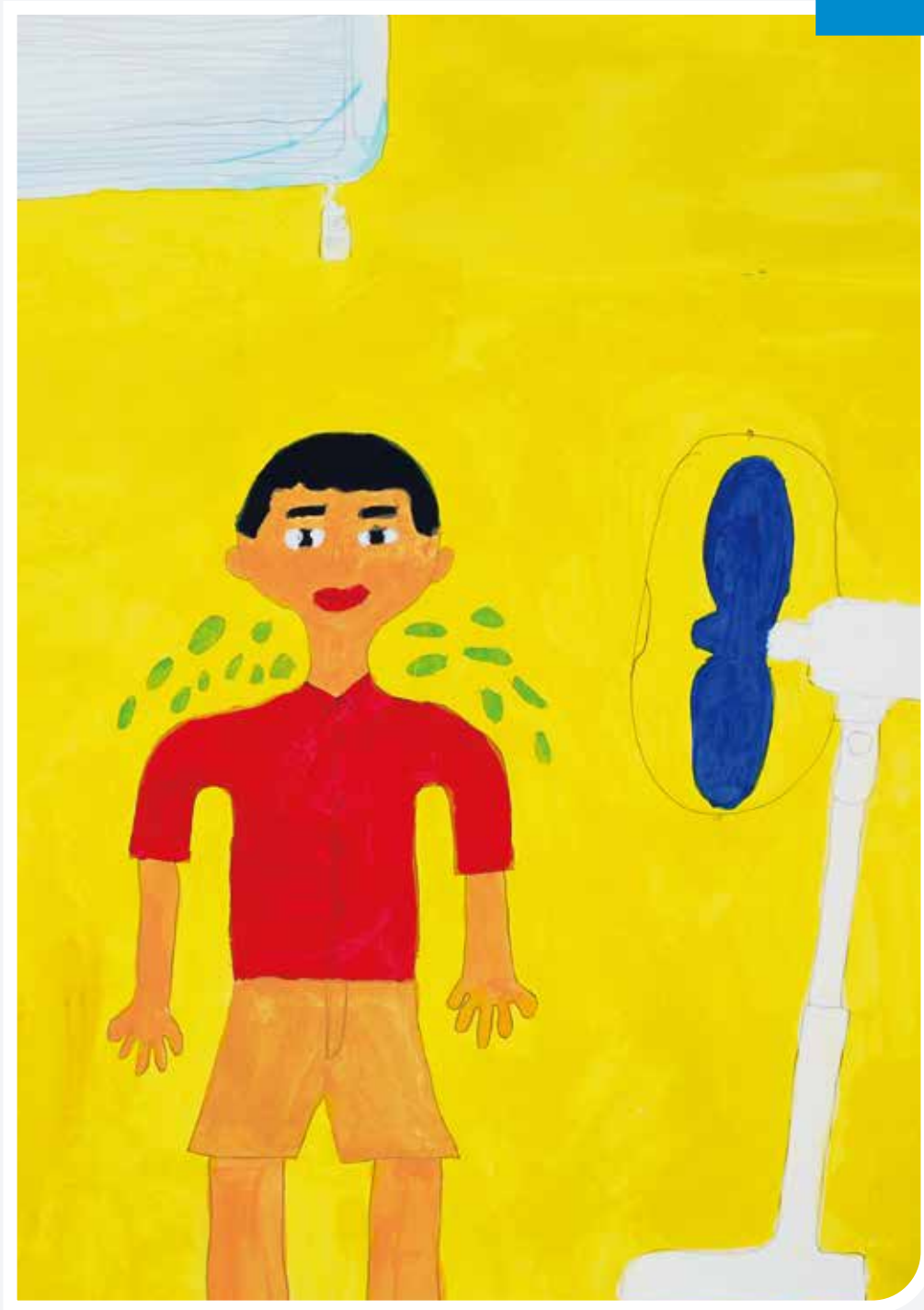
成育だより

NCCHD
News Letter
2025 Summer

Vol.43

National Center for Child Health and Development

<https://www.ncchd.go.jp>



特集
熱中症

ICWH プレコンセプションケアセンター / ICWH 妊娠と薬情報センター / 夏に気を付けたい女性の「ほてり」と「汗」
分子内分泌研究部 / 臨床研究センター / 専門職のご紹介(小児救急看護認定看護師/管理栄養士)
ホスピタル・ファシリティドッグ®・マサ / 新任の先生 / Information

特集 熱中症



Satoko Uematsu

植松 悟子

救急診療部 統括部長

副院長

好きな食べ物：豆もやし



大人の「気付き力」で 子どもを守る

夏はぐんぐん気温が高くなり、外で遊んだり運動したりするときは「熱中症に注意！」の時期でもあります。命に関わることもある熱中症ですが、正しい知識を身に付けることで、予防することも、早めに気付いて対応することもできます。

暑い環境、運動などによって、たくさんの熱が生まれると、体温が上昇しすぎて体がちゃんと機能しなくなります。高い体温は、酵素（体の中でのいろいろな化学反応を助ける役割を持つもの）の働きが悪くなって、体の臓器の働きも低下させます。そのため、熱中症は軽い状態から、生命に関わる重たい状態までさまざまです。

特に子どもは、汗をかくことを含めて体温を調節する働きがまだ整っていないことや、全身を巡る血液の量も少ないため脱水になりやすく、熱中症にもなりやすいと考えられています。

熱中症予防のためには、こまめな水分補給！でも、公園で遊んでいる子どもたちに大人が声を掛けても「喉は渴いてないよー」と言われることもしばしば。子どもたちは遊びに夢中で水分のことなんて忘れてしまったり、自分の体の変化に気付かなかったりするものです。

そんなときは、大人がしっかりと時間を決めて、なかば強制的にでもしっかりと水分補給させてあげることが大切です。

子どもは自分で症状をうまく伝えられないこともありますので、まわりの大人が気を配り、「さっきより、元気がないかも！」「あんなに走ってるのに、汗をあまりかいてない」など、子どもたちの様子をしっかりと観察して、いつもの違いに「気付いて」あげましょう。

夏休みが始まると、保護者の目の届かない時に、お子さんが外で遊ぶ機会も増えてきます。そんな時は、「気温が高くなる12時～15時くらいまでは、なるべく家の中で遊ぼう」「外に出る時は、帽子をかぶって水筒を持って行く」など、外で遊ぶ時のルールを作っておきましょう。

大人の「気付き力」が、子どもたちを熱中症から守る第一歩です。



おしえて！先生！

Q1.

子どもが水を飲みたがりません。
どうやって飲ませたら良いでしょうか？

A1. 一時的に水分をとる方法として、アイスやフルーツを取り入れるのも良いと思います。ちょっとした休憩にもなり、リフレッシュできて一石二鳥です。ただ、糖分が少し気になるので、後でお水を飲むなどのフォローがあると安心です。また、ごはんからも水分がとれるので、外出前にしっかり食事をしておくことも熱中症予防に大切です。赤ちゃんや小さなお子さんは「のどが渴いた」と言えないため、ミルクや麦茶、白湯などでこまめに補いましょう。無理なく、楽しく水分がとれるような習慣を、日常の中に取り入れていきたいですね。



Q2.

昔に比べて熱中症になる子どもが多い気がします。どうしてなのでしょう？

A2.

気温上昇などの環境面と、私たちのライフスタイルの変化が関係していると思います。まず、気温で言えば、東京の8月の平均気温はこの30年間で約2℃上がっています。また、7月～9月の猛暑日(35℃以上)の日数は倍増(1994年：8日間、2024年：20日間 出展：気象庁)し、熱中症のリスクは以前よりずっと高くなっています。さらに、現代の子どもたちは、エアコンのある室内で過ごす時間が長く、暑さへの“身体の準備=順化”が不十分なことも多くあります。以前は、確かに「根性で乗り切れ！」みたいな風潮の時代もありましたが、気温も環境も今ほど過酷ではなかったからできたのかもしれませんが。昔と比べるのではなく、「今」に適した過ごし方や、熱中症対策を行いましょう。



救急診療部について

私たちの小児救急センターは、24時間365日体制です

夏休みや長期休暇、ご近所のクリニックが診察していない時であっても、子どもの不慮の事故や発熱などの急病は突然やってきます。当センターの小児救急センターは、原因に関わらず急な出来事で困っている子どもの手助けができるよう、年末・年始やゴールデンウィークなどの長期連休を含め、昼夜を問わず24時間365日、複数名の外来診療担当医を配置しています。診療を希望される方は、いつでも救急センターへ直接いらしてください。

国立成育医療研究センター 救急診療部
<https://www.ncchd.go.jp/hospital/emergency/>



救急車だけでなく、
一般の方も受け入れています。

運動中の予防・対策

とにかく、こまめに
水分補給を！

のどが渴いたと感じた時には、体はすでに水分を失っています。そうなる前に、こまめに水分や塩分をとるようにしましょう。水筒を持ち歩くのもおすすめです。特に運動中は、電解質が含まれているスポーツドリンクを飲むと良いでしょう。

9～12歳	12歳～	小さなお子さんの場合
 20分ごと200～250mlくらい	 1時間ごと1～1.5Lくらい	食事合わせて、 体重10kg/1日1L、 体重15kg/1日1.25L 程度の水分が必要です。

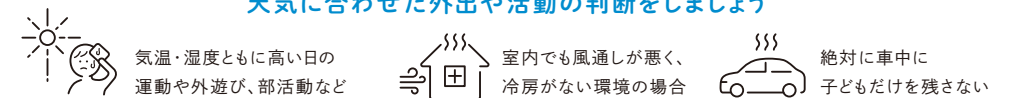
服装の調節をしましょう

気温や体温に合わせて、帽子や日よけの使用、明るい色で通気性の良い服装を心掛けましょう。

かならず、日陰・屋内で休憩しましょう

子どもは地面からの照り返しの影響を、大人より受けるため、熱中症になりやすいです。

天気に合わせて外出や活動の判断をしましょう



どんな症状があるの？

軽度・中等症

- ・元気がない
- ・あくびが出る
- ・熱がある*
- ・頭が痛い
- ・吐き気がある

重症

- ・声を掛けても反応しない
- ・応答がおかしい(意識障害)
- ・けいれん

救急車を呼びましょう！

*全員が出るわけではありません。

水分がとれて、症状が良くなるかがポイントです。
症状が改善しなければ、受診しましょう。

応急処置

- 太い血管のある「わきの下」や「首」などを氷嚢などで冷やす。^{ひょうのう}
- 冷たい濡れタオルで身体を拭く。
- 風を送る。

Check! WBGT

暑さ指数(WBGT)をチェックしましょう。

環境省「熱中症予防情報サイト」<https://www.wbgt.env.go.jp/>



プレコンセプションケアセンター

女性の健康総合センター(ICWH)では、「プレコンセプションケアセンター」や「妊娠と薬情報センター」を設置し、女性のからだところのケアを行う体制を整えています。広報誌・夏号では、その活動についてご紹介します。

皆さんは、プレコンセプションケア（略称プレコン）という言葉を知っていますか？きつと多くの人が「ない」と答えていると思います。

「プレコン」は、性別を問わず、適切な時期に、性や健康に関する正しい知識を持ち、妊娠・出産を含めたライフデザイン（将来設計）や、将来の健康を考えて健康管理を行うことです。

具体的な行動としては、バランスのよい食事を取る、適度な運動をする、睡眠をしっかり取る、たばこを吸わない、かかりつけ医を持つ、こころの健康に気を付けるなどがあります（左ページ参照）。

ICWHのプレコンセプションケアセンターでは、検査などを通して自分の健康状態について知り、専門の医師や管理栄養士などからカウンセリングを受けられる外来を開設しています。

検査では、健康状態を正しく把握するために、体組成検査を含む身体計測や血液検査・尿検査に加え、AMH（抗ミュラー管ホルモン検査）で卵巣の中にどのくらいの卵

子が残っているかを調べたり、超音波検査で子宮や卵巣の状態を確認したりすることが出来ます。

さらに、これらの検査結果をもとに専門の医師がその人のライフプランやキャリアプランを考えながら、その人に合わせたカウンセリングを行い、管理栄養士が毎日の食事に対して栄養指導も行っています。特に、お子さんを持ちたいと思っているカップルでは、なかなかそのことについて話づらいもの。そういう時は、医師という立場から的確なアドバイスを行うこともできます。

「プレコン」は、これから子どもを持ちたい人もそうでない人も、からだところ、人や社会との関わり、そして命について正しく知り、適切に行動していくこともと言えます。

将来の夢や希望、成し遂げたい仕事や趣味、それらを達成していくために自分をコンディショニングしていくためのツールとしてぜひ取り入れることを考えてみませんか？

What's Preconception Care?



皆さんぜひチェックしてみてください。

Preconception Care - Check Sheet

- ☐ 適正体重をキープしよう。
- ☐ 禁煙する。受動喫煙を避ける。
- ☐ アルコールを控える。妊娠したら禁酒する。
- ☐ バランスの良い食事をこころがける。
- ☐ 150分/週、運動しよう。こころもからだも活発に。よい睡眠をとろう。
- ☐ 感染症から自分とパートナーを守る。(風疹・B/C型肝炎・性感染症など)
- ☐ ワクチン接種をしよう。
(風疹・インフルエンザ・HPVワクチン・おたふくかぜなど)
- ☐ かかりつけ医をもとう。(内科・婦人科など)
- ☐ 歯のケアをしよう。
- ☐ 将来の妊娠・出産やライフプランについてパートナーと一緒に考えてみよう。

ホームページからは、より詳しいチェックができます。
プレコンノートのダウンロードもこちらから！

<https://www.ncchd.go.jp/hospital/about/section/preconception/preconnote/>



好きな食べ物は 桃



Asako Mito
三戸 麻子

プレコンセプションケアセンター
医長

妊娠と薬情報センターには、
多くのご相談が寄せられています。

2021年度調べ

主なご相談内容

- 妊娠を考える方のお薬について
- 妊娠中のお薬について
- 授乳中のお薬について



精神神経系
疾患治療薬
44%

その他
37.4%

消化器系
疾患治療薬
2.7%

妊娠中にご相談いただいた薬剤

感染症
治療薬
6.9%

アレルギー
疾患治療薬
5.2%

てんかん
治療薬
3.8%



Web問診システムの流れ

1. こちらからお入りください。
<https://n-kusuri.ncchd.go.jp/ncchd/login>



2. Web問診システムで、
アカウントを作成、問診票にご入力。

3. 妊娠と薬情報センターで問診票を確認後、
「相談方法のお知らせ」をメールにて通知。

4. 「妊娠と薬外来」のご予約。

5. 日時決定後、「妊娠と薬外来」でご相談。

妊娠と薬外来一覧

<https://www.ncchd.go.jp/kusuri/popwindow.html>

*妊娠中・妊娠を希望される女性ご本人からのお申込みのみお受けしております。
ご家族や、男性からのお申込みは承れませんのでご注意ください。

好きな食べ物は
うどん



Sachi Koinuma
肥沼 幸

妊娠と薬情報センター 医師

妊娠と薬情報センター

日本では、持病のある妊婦さんの割合は32%（2010年）と言われています。妊娠と薬情報センター（以下センター）では、妊娠・授乳中に使用した薬について不安を感じている方への相談事業、また同意を得た相談者や調査への協力者から得た情報をもとに、妊娠中の薬の使用に関する安全性のエビデンス創出、さらにそれらの情報提供を行っています。

「もともと持病があつて薬の治療が必要だけれど、治療を続けながら妊娠しても大丈夫？」「妊娠に気付かず薬を使ってしまったけれど、赤ちゃんに影響はない？」「授乳中でもお薬は使える？」と不安を感じる女性はたくさんいらっしゃいます。

当センターは、こういった不安や心配に対して、直接相談を受け付けています。まずは、Web問診システムで使ったお薬や治療中の病気、生活環境などについて入力いただき、情報を当センターに送っていただきます。当センターではその内容を確認し、相談者へ「妊娠と薬情報センターの拠点病院（47都道府県にあります）」をご紹介します。相談者の方は、その拠点病院にある「妊娠と薬外来」を予約して、専門の医師・薬剤師と直接相談ができるというシステムです。

「授乳と薬相談」はより簡便にWebシステムで申し込むことができ、電話やオンラインで相談を受けることができます。これまでに約2万件の妊娠・授乳中のお薬の相談に対応し、「お母さんと赤ちゃん、両方

の健康を守る」ことに貢献してきました。妊娠・授乳中のお薬について心配のある方は、ぜひご相談ください。

妊婦さん・授乳婦さんから薬の相談を受けた際に、医療者が最も参考にするのは薬の「添付文書」とされていますが、添付文書は妊婦さんへの使用について十分な情報や最新の情報を掲載しているとは必ずしも言えません。多くの薬では、妊娠中に使用してもお腹の赤ちゃんに悪い影響はみられなかったという報告があります。

当センターでは、妊娠・授乳中の薬の使用について世界中から最新の研究情報を集めて検討することや、センターや拠点病院で相談を受けたお母さんへの妊娠中や生まれた赤ちゃんに関するアンケートなどの独自の調査により、薬の安全性に関するエビデンスを創出し、情報発信や研究論文としても発表しています。

こういった情報が、妊婦さんや授乳婦さんから相談を受けた医療者のサポートにもなり、不安を抱かずに妊娠や授乳を継続することに繋がっていくと考えています。



<https://www.ncchd.go.jp/kusuri/>

40代後半から50代の女性は、女性ホルモン（エストロゲン）の分泌が減ること、体や心にさまざまな変化が現れることがあります。この時期は「更年期（こうねんき）」と呼ばれ、多くの女性が日常生活の中で不調を感じやすくなる時期です。

よく見られるのが、「顔や体が急に熱くなる」「大量に汗が出る」といった症状で、これは「ホットフラッシュ」と呼ばれます。また、「上半身は暑くて汗が止まらないのに、下半身は冷えてつらい」といった体の温度差を感じる方も少なくありません。ホルモン変化に伴う自律神経の乱れにより、体の自動調整機能のバランスが崩れて血流や体温の調節がうまくいかなくなることで起こると考えられています。

特に夏は、気温や湿度の高さに加えて、冷房の効いた室内と外気との温度差が大きくなるため、こうした症状が出やすくなります。通勤中や外出先で突然汗が噴き出したり、冷房の効いた部屋で足元が冷えて不快に感じたりすることもあります。夜中に寝汗で目が覚めて

しまい、睡眠不足が続くという声もよく聞かれます。

不調を和らげるには、日常生活でのちょっとした工夫が役立ちます。通気性の良い服を選ぶ、首元を冷やすグッズや携帯用の扇風機を使う、こまめに水分をとる、カフェインやアルコールを控える、夜はエアコンで26〜28℃を目安に寝室を快適に保つといった方法があります。また、下半身の冷えが気になるときは、レッグウォーマーや腹巻き、足湯などで温めると良いでしょう。

つらい症状が続くときには、我慢せずに産婦人科で相談することも大切です。医師と話し合いながら、「ホルモン補充療法（HRT）」や「漢方薬」など、自分に合った治療法を選ぶことができます。これらの治療法によって、ほてりや発汗などの症状が軽くなることもあります。

更年期は誰にでも訪れる自然な体の変化です。ご本人も周りの人も、その特徴を知って声を掛け合いながら、自分に合った方法で焦らず少しずつ対処していきましょう。



Izumi Fujioka
藤岡 泉
女性外科/婦人科



女性外科 婦人科のご案内

良性婦人科疾患、月経困難症などの女性特有の疾患や、原因不明の体調不良が続く方の診療を行います。女性外科に関しては、現在開設に向け準備を進めているところです。外科的手技を要しない保存的治療が主体となります。

一対象疾患一

子宮筋腫、子宮内膜症、卵巣のう胞などの良性疾患、月経困難症・月経前症候群（PMS）、更年期障害、慢性疾患を有する思春期患者さんのトランジション（移行期医療）における月経関連症状（無月経、稀発月経あるいは月経困難症など）

臨床研究センター

治験ってなに？

「治験(ちけん)」とは、「国に新しい薬や医療機器の使用を認めてもらう」ために行う臨床試験です。より良い薬を早く患者さんに届けるには、安全で質の高い治験をスムーズに行うことが大切です。

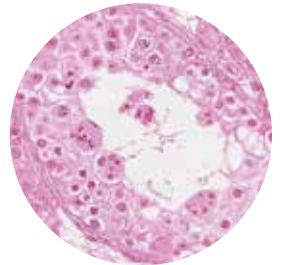
子どもを対象にした治験では、大人と違って体の成長や反応が異なるため、より細かい配慮が必要です。当センターでは、多くの治験が子どもを対象に行われており、子どもたちや保護者の協力のもとで実施されています。

また、臨床研究コーディネーター(CRC)と呼ばれる専門スタッフが、治験が安全に、そしてうまく進むようにサポートしています。CRCは、小児や周産期の医療の経験を生かし、製薬会社と相談しながら、治験の進め方や説明内容についても工夫しています。



Maki Fukami
深見 真紀

分子内分泌研究部 部長
研究所 副所長
好きな食べ物:とうもろこし



分子内分泌研究部は、からだの中でホルモンがどのように作られ、調節され、どう働いているのかを研究しています。

ホルモンは「人間の体と心のバランスを保つ司令塔」です。人間の体の中では何十種類ものホルモンが作られます。ホルモンは人間が健康に生きていくためには欠かせないものです。例えば、脳で作られる「成長ホルモン」がうまく働かないと背が伸びなくなります。

皆さんは、「子どもは夏に背が伸びる」という話を聞いたことがありませんか？ 私たちは、特に子どもの成長や二次性徴などに関連するホルモンの注目し研究しています。

私たちの研究から、「夏に身長が伸びやすい」傾向があることが分かりました。その理由として、成長ホルモンが直接関係しているかどうかは明らかではありませんでしたが、夏に日光をたくさん浴びることで体内でビタミンDが多く作られ、それが身長の伸びを助けている可能性があると考えられました。

これまでに、多くの患者さんやご家族の協力で、胎児の発育が悪くなる病気や思春期の二次性徴が遅くなる病気などを引き起こす遺伝子の変化を見つけています。

また最近では、ホルモンが人によってどのように違うのかを調べる研究もしています。もともとホルモンの量は人によって差があります。例えば、男性と女性では「テストステロン」などの性ホルモンの量が大きく違いますし、大人と子どもではいろいろなホルモンの量に違いがあります。このようなホルモンの違いは、男女の身体構造の違いだけでなく、背の高さなどの個人差にも関係していると考えられます。

造の違いだけでなく、背の高さなどの個人差にも関係していると考えられます。

ホルモンには、まだまだ分かっていないことがたくさんあります。例えば、数年前に人で新たな男性ホルモンが働いていることが分かり、話題になりました。

私たちはこれからもホルモンや遺伝子の研究を通して、子どもや女性の健康推進、さらに人の多様性(個人差)の理解に少しでも役立ちたいと考えています。



左上から右周りに 戸村 有希、宮本 佳世子、関 佐知子、神谷 美波

Kayoko Miyamoto 宮本 佳世子

管理栄養士
栄養管理部 室長
好きな食べ物：すいか

管理栄養士は、患者さん一人一人の状態に合わせた栄養食事指導や栄養管理を行っています。たとえば栄養食事指導では、食事のエネルギー摂取量や、特定の栄養素を調整する必要がある方や、食物アレルギーがあつて食べられないものが限られている方、食欲がわかない方、栄養が足りない方、逆に栄養を取り過ぎている方などに、それぞれに合った食べ方を一緒に考えています。栄養管理では入院中の患者さんの

栄養状態を確認したり、食事以外にチューブで栄養をとっている方には管理計画も立てています。また医師・看護師・薬剤師などさまざまな職種スタッフと「チーム医療」に取り組み、栄養がうまく取れない背景についていろいろな角度から検討します。これからの季節は、室内外での温度差や湿度の影響で体調を崩しやすい、食欲が落ちることもあります。冷たい

ものやさっぱりしたものだけで済ませがちですが、そんな時こそ「単品ではなく、組み合わせる」ことが大切。たとえば冷たい麺なら具たくさん、冷やし中華にする、お茶漬けなら鮭フレークや刻んだネギなどを加えてみてください。1日3回の食事で主食（炭水化物）＋主菜（たんぱく質）＋副菜（野菜）でバランスよく食べることを心掛け、夏バテを防ぎましょう。



小児救急医療は、少子化や核家族化が進むなかで、子どもたちの命を守り、健やかな成長発達のために欠かせない役割を担っています。私たち小児救急看護認定看護師は、救急を受診する患者さんご家族に対して、体や心の状態、家庭や社会的な背景に配慮しながら支援を行う専門職です。病状の緊急性と重症度を判断し、適切な治療へと結び付ける「院内トリアージ」や、虐待への対応、家庭でのケア指導といった育児支援のほかに、子どもの事故予防に向けて啓発活動を行っています。なかでも夏になると、子どもの水の事故が特に心配されます。年間を通して起こる事故ですが、プールや川、海でのレジャーが増える7～8月に多く発生します。命を落としたり、重い後遺症が残るケースもあるため、事故を防ぐための対策がとても重要です。浮き輪などの浮き具も使っている安全とは限りません。人とぶつかって

浮き具が手元から離れたたり、転落することもあります。水周りで遊ぶときは、大人が子どもに手の届く距離で付き添う必要があります。家庭用のビニールプールのような少ない水でも、少しだけ大人がそばを離れた、スマホを見ていたといったわずかな時間で溺れることもあります。どうしても離れる時は、子どもを水から出し、水周りに子どもだけで近づけないようにする環境を作ることが必要です。また、川や海では股ベルトがついているライフジャケットを正しく着用させましょう。「事故が怖いから海や川では遊ばせない」のではなく、安全に遊ぶにはどうしたらよいかを家族で考え、子どもにも伝えることが大切です。Sachico Hayashi 林 幸子 小児救急看護認定看護師 好きな食べ物：白くま金時

新任の先生



国立成育医療研究センター
臨床研究センター長

Kotone Matsuyama

松山 琴音

好きな食べ物:数の子

皆さま、はじめまして。6月より臨床研究センターに着任いたしました松山琴音です。治験や臨床研究の支援をしています。

私は今まで一貫して、トランスレーショナルリサーチや医師主導治験などでの開発支援を行ってきました。これから皆さまの日常の臨床的な気付きを研究にしていくことや、研究を行う際のお悩みなどに寄り添った支援を心掛けてまいります。小児や女性の健康に関連した研究開発の推進は、非常に重要ですが、多くの課題にも直面している状況だと思います。研究者の皆さまと一つ一つ考えていきたいと思っています。より開かれた臨床研究センターを目指していきますので、お気軽にお声掛けください。



ホスピタル・ファシリティドッグ®・マサ

おしえて！ハンドラーさん！

当センターで患者さんをサポートしているファシリティドッグのマサ。

「マサはいつもどんなお仕事をしているの？」と聞かれることも。

そんな素朴な疑問に、マサのハンドラーである権守さんに答えてもらいました！

Q1.

患者さんのサポートって、
どんなことをしてるの？

A1.

成育医療研究センターには、たくさんの患者さんが入院しています。今は、長期入院の患者さんのところを中心に訪問しています。採血や点滴をする時に付き添って子どもたちを励ますことや、長く点滴している部分の定期消毒、検査で眠るお薬を使う時にも側にいます。その他にも、リハビリと一緒に頑張ったり、お薬を飲むお手伝いをしたりします。

みんなのところに行きたいのですが、マサの活動は動物福祉にも配慮しているので、全員のところには行けないのが現状です。

Ayami Gonnokami

権守 礼美(左)

ハンドラー・
小児看護専門看護師

ホスピタル・ファシリティドッグ®は認定NPO法人シャイン・オン・キッズの登録商標です

Q2.

子どもたちの年齢や病状によって、
マサの関わり方は違うの？

A2.

ハンドラーである私は看護師の資格と臨床経験を持っています。そのため患者さんの年齢や病状を踏まえて、先生や看護師さんなどの医療チームと相談しながら、マサにできることを考えています。成長や発達を促すための遊び、その時に子どもたちが苦手としていることのお手伝い、ただそっとそばにいる寄り添いなど、子どもの好みや心の状態に合わせて目的や方法を変えてサポートしています。

Facility Dog Masa

マサ(右)

犬種:ラブラドル・レトリバー
誕生日:2019年3月7日生まれ♂



看護部



「看護の日」のイベントを開催しました

5月12日の「看護の日」に合わせ、イベントを開催しました。看護服を着ての記念撮影や、聴診器で心臓の音を聴く体験、模型やイラストを使って自分の身体を知るコーナーなど、子どもたちが楽しめる催しもたくさん行いました。

また、子どものスキンケア・薬・離乳食に関する専門職による相談ブースもあり、立ち寄った多くのご家族からは「看護師や薬剤師と直接話せて安心した」「子どもの成長に役立つ情報が得られた」との声も聞かれ、看護の大切さを身近に感じていただけた機会となりました。

教育研修センター



ぬいぐるみを通じた医療体験イベントを開催しました

5月24日(土)、当センターのレジデントと早稲田大学ぬいぐるみ同好会の皆さんが「ぬいぐるみを元気にしよう!～おうちのぬいぐるみで医療体験～」を開催しました。

このイベントは、心音を聞く、包帯を巻く、お薬を処方する、といった医療現場で行われる処置を、ぬいぐるみを患者さんに見立てて行うものです。

当日は、70名近くのお子さんにご参加いただき、喜んでいただけました。参加者や保護者の方々からは、「また来たい!」という声も多く聞かれ、第2弾の開催も検討しています。

センター



8月2日 恒例の成育夏祭りを開催します!

今年も夏祭りのシーズンがやってきました!
当センターの夏祭りは地域の皆さまとの交流を目的に、毎年8月に開催されています。

焼きそばや焼き鳥、フランクフルト、ソフトドリンク、アルコールなどの屋台や、お子さん向けのゲームコーナーもあります。また、中庭にはやぐらを建てて盆踊りも行いますので、是非遊びにいらしてください。

日時: 2025年8月2日(土)

16時頃開始予定(小雨決行)

場所: 国立成育医療研究センター中庭

※お車での来場はご遠慮いただいております。

ご寄付

アイノポテチプロジェクト



「アイノポテチプロジェクト」スタートのお知らせ

歌手のMISIAさんが、当センターのために新しいチャリティープロジェクト「アイノポテチプロジェクト」を始動させました!「アイノポテチ」のパッケージをモチーフにしたバッグやノート、ファイルなどのグッズを販売し、1アイテムにつき100～500円がアイノカタチ基金に寄付されるものです。日々の生活に遊び心をプラスしてくれるグッズは、ライブ会場でも大変好評とのこと。寄せられたご寄付は、当センターでの先進的な医療への支援や子どもたちの療養環境の整備などに使わせていただきます。

「アイノポテチプロジェクト」特設HP
<https://mudef.net/sp/ainopotechi/>



受賞報告

第52回日本集中治療医学会学術集会でOutstanding abstract award受賞

集中治療科 山鹿友里絵・谷村聡一郎

第52回日本集中治療医学会学術集会(第5回日タイJoint Scientific Congress)にて、「An Estimation Formula of Ionized Magnesium in Critically Ill Children」の演題で英語発表を行い、Outstanding abstract awardを受賞しました。本研究では専用機材を用いずにイオン化マグネシウムの値を推定する式を発案し、その正確性を検定した結果を報告しました。この受賞は多くのご指導・ご協力の賜物であり、研究成果を活用しより安全で正確な小児集中治療管理法を考えてまいります。

受賞報告

第35回日本臨床工学会BPAセッションで最優秀賞受賞

医療工学室 芝田 正道

「物体検出AIを用いた人工呼吸器関連インシデント判別モデルの検討」において、最優秀賞を受賞いたしました。AIを活用した人工呼吸器インシデントの判別をテーマとし、Google Cloud Runを利用したWebアプリの構築や、インシデント判別時のメール通知機能の活用について発表いたしました。今後も引き続き研究活動に取り組んでまいります。

扇風機や冷房の効いたお部屋で、止まらない汗に悪戦苦闘している男の子の姿がとても可愛らしく、特集テーマにぴったりだったので、夏号の表紙に選ばせていただきました。

表紙の絵について

当センターでは、さまざまな個性を持った方々との共生を目指して、表紙イラストに障がいのあるアーティストのイラストを採用しています。思わずクスッと笑ってしまう作品、目を見張るような作品など、魅力あふれる作品をご紹介します。2025夏号は、エイブルアート・カンパニー所属、蔵本裕士さんの作品です。

描いた人：
蔵本 裕士
1974年生まれ
千葉県在住



アイノカタチ基金

ご寄付について

子どもたちの命を守るための医療機器の整備や、療養環境の改善のためにご寄付をいただけるとありがたく存じます。当センターへの寄付は税制上の優遇措置（寄付金控除）を受けることができます。詳細はHPをご覧ください。



<https://www.ncchd.go.jp/donation/>



国立成育医療研究センター お問い合わせ

医療関係者の方

医療連携室

直通 03-5494-5486 (月～金8:30-16:30)

救急センター

代表 03-3416-0181 (24h受付)

NICU

母体搬送

PICU

代表 03-5494-7120 (内線7070) (24h受付)

患者さん・ご家族

予約センター

病院 03-5494-7300 (月～金9:00-17:00)

産科 03-5494-8141 (月～金9:00-17:00)



国立研究開発法人
国立成育医療研究センター
National Center for Child Health and Development